

「もしもの時に伝えるシート」

の作成と

～緊急時連絡先の準備の周知～

都島区在宅医療・介護連携相談支援室

竹下 美代子

区の概況



人口108,441人 R5年10月1日現在)

(65歳以上人口 26,945人)

高齢化率 24.8%

【都島区の現状】

高齢者の独居率の上昇 (令和2年度国勢調査)

7,384世帯10年前の1.24倍

認知症高齢者率の上昇 (令和4年度)

要介護認定者中、日常生活自立度Ⅱ以上と認定された割合37% (2,200人)

テーマに対する背景・課題

- 身寄りのない方が亡くなられ、ご本人の意思を引き継げなかった事例が度々あり、何とかしないといけないという課題があった。
- 救急で運ばれてきたものの、緊急連絡先がわからない患者の医療や支援に困ることがあった。
- 安心カプセルはうまく活用されているかどうか。

【取り組みのきっかけ】

いろんな切れ目を作らないツールとして、市民、医療、介護関係者に一番身近に感じてもらえる活動はどのような方法があるか。

救急外来・地域とカンファレンス

- 救急外来では、お薬手帳は確認するが、トラブルを防ぐため為、カバンの中を開けて見ることは殆どない。
- 帰って頂ける状態でもお迎えに来て頂く連絡先が分からず、救急室で待機して頂き救急室を開けることが出来ない事がある。
- 病院へ救急搬送され所持金もなく意識が戻らぬまま亡くなり、身寄りがわかるものがなく、病院が死後の手続きをしないといけないこともあった。

「安心カプセル」について在宅サービス関係者にヒアリング

- ①周知はできているが、冷蔵庫に入ったまま救急搬送時活用出来ている人が少ない。
- ②救急搬送時カバンに入れて持参したが、預かり荷物の中に入ったままだった。
- ③安心カプセルを今後、増刷する予定はない。
ということがわかりました。

救急医療現場でも円滑に活用できるツールを作ろう♡

- 緊急連絡先等を書き込むシートを「切れ目のない入退院支援ワーキング」で検討
- お薬手帳とシートを一緒に入れる
「お薬手帳カバー」を、薬剤師会へ協力依頼。
- 都島区全体で取り組めるシートを作成し、そこから「もしもの時に伝えたいこと」エンディングノートへつながるものを検討。

都島区では、身寄りのない方が亡くなられ、ご本人の意思を引き継げなかった事が、度々あり「みやこねっと」の会議の中でも何かの対応をしないといけないという課題があった。

<R5年度検討課題>

「高齢者が元気なうちから自分の将来像を描く機会が少ない」

<都島区の目指す目標>

高齢者が元気なうちから、もしもの時を考える

<令和5年度の具体的目標>

緊急連絡先の準備の周知

ということから

みやこねっとコアメンバーと都島区在宅医療・介護連携推進協議会メンバーで合同会議を行い一緒に取り組めるものを検討。

都島区高齢者地域包括ケアシステム推進会議（みやこねっと）

R5.4.1改定

（目的）
都島区における「在宅医療・介護連携推進事業」、「生活支援体制整備事業」、「認知症総合支援事業」、「地域ケア会議推進事業」の包括的支援事業を推進し、さらに地域包括ケアシステムの深化・推進を図る

組織	医師会	居宅介護支援事業者連絡会
	歯科医師会	民生委員・児童委員協議会
	薬剤師会	地域包括支援センター運営協議会
	警察署	認知症高齢者等支援ネットワーク連絡会
	消防署	社会福祉協議会
		在宅医療・介護連携相談支援室
運営	区役所保健福祉課（福祉）	

地域包括支援センター運営

【在宅医療・介護連携推進事業】

認知症総合支援事業

生活支援体制整備事業

地域包括支援センター運営協議会 （地域ケア推進会議）

在宅医療・介護連携推進協議会

認知症施策推進会議

生活支援体制整備事業協議会 （ワーキング）

医師会
歯科医師会
薬剤師会
民生委員・児童委員協議会
老人クラブ
女性団体協議会
社会福祉施設連絡会
居宅介護支援事業者連絡会
警察署
消防署
訪問ネット（訪問看護連絡会）
在宅医療・介護連携相談支援室
見守り相談室
生活支援体制整備事業協議会
区役所保健福祉課（地域保健活動）
地域総合相談窓口（ランチ）
◎ 地域包括支援センター
◎ 北部地域包括支援センター
認知症強化型包括支援センター
◎ 区役所保健福祉課（福祉）

医師会
歯科医師会
薬剤師会
居宅介護支援事業者連絡会
ヘルパー連絡会
訪問ネット
在宅医療・介護連携相談支援室
地域包括支援センター
北部地域包括支援センター
区役所保健福祉課（福祉）
◎ 区役所保健福祉課（健康推進）

認知症初期集中支援 推進事業関係者会議

認知症高齢者等支援 ネットワーク連絡会

医師会
在宅医療・介護連携相談支援室
生活支援体制整備事業協議会
見守り相談室
地域包括支援センター
北部地域包括支援センター
オレンジチーム
地域総合相談窓口（ランチ）
区役所保健福祉課（福祉）
区役所保健福祉課（地域保健活動）
◎ 認知症強化型包括支援センター

医師会
歯科医師会
薬剤師会
民生委員・児童委員協議会
高齢者入所施設連絡会
居宅介護支援事業者連絡会
デイケア・デイサービス連絡会
ヘルパー連絡会
介護家族の会
キャラバンメイト連絡会
在宅医療・介護連携相談支援室
生活支援体制整備事業協議会
見守り相談室
地域包括支援センター
北部地域包括支援センター
地域総合相談窓口（ランチ）
オレンジチーム
区役所保健福祉課（福祉）
区役所保健福祉課（地域保健活動）
◎ 認知症強化型包括支援センター

◎は事務局

（所管事務）

コアメンバー会議

1. 要綱第2条に定めた事項の調整
2. みやこねっとにおける検討内容の円滑な推進のための包括的支援事業の現状共有

在宅医療・介護連携推進協議会事務局	地域包括支援センター
認知症施策推進会議事務局	北部地域包括支援センター
生活支援体制整備事業事務局	都島区在宅医療・介護連携相談支援室
地域包括支援センター運営協議会事務局	都島区認知症高齢者等支援ネットワーク連絡会

庶務は輪番でおこなう。

作業部会

（所管事務）

1. 要綱第2条により定めた「みやこねっと」における協議内容の具体的対応策の検討。
2. みやこねっとが作業部会において検討が必要と認める事項の協議。

構成員：テーマにより、みやこねっとで選定
庶務：区保健福祉課（福祉）

都島区高齢者地域包括ケアシステム推進会議 (みやこねっと)

組織: 医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、警察署、消防署、
地域包括支援センター運営協議会、民生委員・児童委員協議会、居
宅介護支援事業者連絡会、認知症高齢者等支援ネットワーク連絡会、
在宅医療・介護連携相談支援室

運営: 区役所保健福祉課(福祉)

・コアメンバー

在宅医療・介護連携推進協議会事務局、 地域包括支援センター
認知症施策推進会議事務局、 北部地域包括支援センター
生活支援体制整備事業事務局、都島区在宅医療・介護連携相談支援室
地域包括支援センター運営協議会事務局、都島区認知症高齢者等支
援ネットワーク連絡会

「もしもの時に伝えるシート」の作成について

- ・必要最低限のもので、書きやすいもの
- ・専門職の意見、区民等にお試して実際記入して頂き、意見を参考に作成。
- ・シートを分かって頂くための案内文の作成。
- ・印刷に関してシートを25,000部、案内文に関しては20,000部の印刷費用を医師会と交渉。

「お薬手帳カバー」について

- ・参考にサンプルを作り薬剤師会会長へ提案。
会議にも数回参加頂き薬剤師会で作成の検討。

「もしもの時に伝えるシート」の目的

- 高齢者が元気なうちからもしもの時を考えるとともに、もしもの時（緊急時）に患者の支援等を円滑にできるよう地域関係機関で共有し、連携した支援を行う。

2 対象者

- 都島区民で概ね高齢者（60歳以上）又はその同居の親族等。
- 都島区内の設置場所に来所された方でシートを希望された方。
（他区他市民への配布も可）

3 周知・啓発方法

- 設置によるもの（医療機関、歯科医院、区役所等を想定）
- 説明、記入補助を行うもの（薬剤師、訪問看護、ケアマネジャー等を想定）
 - ※ お薬手帳カバーについては、現在都島区薬剤師会にて検討中。

もしもの時に伝えるシート

R5年10月10日発行

<p> このシートを記入した人が本人以外の場合 関係・お名前のご記入をお願いします。</p> <p>本人との関係: _____ お名前: _____</p> <p><small>企画制作: 都島区在宅医療・介護連携推進協議会 一般社団法人都島区医師会、一般社団法人都島区歯科医師会、都島区薬剤師会、都島区 地域包括支援センター、都島区立地域包括ケアセンター、都島区在宅介護支援事業 連合会、みやこびま診療ネットワーク、都島区ヘルパー連絡会、都島区保健福祉センター、 都島区在宅医療・介護連携相談支援室、大阪市立総合医療センター</small></p> <p><small>発行 一般社団法人都島区医師会 都島区在宅医療・介護連携相談支援室</small></p>	<p>もしもの時に伝えるシート</p> <p>裏面もご記入の上、四つ折りにして お薬手帳と一緒に持ちください！</p>  <p>2023年度版</p>
<p> 「もしもの時に伝えたいこと」 エンディングノートをお持ちですか？ 元気づちなどに、自分の思いや希望を伝えておきましょう。</p> <p>★ノートを記入された方は、 置いている場所をお書きください。</p> <p>場所: _____</p> <p>★「もしもの時に伝えたいこと」ノートは 都島区保健福祉センター分館にあります。 (無料)</p> 	<p> このシートを記入した日</p> <p>年 月 日</p> <p>修正日 年 月 日</p> <p>★記入部分に変更がないか、時々確認しましょう。 変更部分があれば、書き直しましょう。</p>
<p> 本人(わたし)の情報</p> <p>フリガナ:</p> <p>名前: _____ 電話: _____ 生年月日: 大正 昭和 平成 _____ 年 月 日 住所: 大阪市</p> <p> 薬や食べ物アレルギー、アルコール消費等に 過敏であれば記載しておきましょう。</p> <p>アレルギー: _____</p>	<p> 緊急時連絡先: 医師の説明を 聞いてくれる人を記入しましょう。</p> <p>フリガナ: _____ 関係 _____</p> <p>① 名前: _____ 電話: _____</p> <p>フリガナ: _____ 関係 _____</p> <p>② 名前: _____ 電話: _____</p>
<p> かかりつけ医(主治医) (医院・病院の名前)</p> <p>医療機関名: _____ 電話番号: _____</p> <p> ケアマネジャー(介護保険利用者)</p> <p>居宅支援事業所名: _____ 担当者の名前: _____ 電話番号: _____</p>	<p> わかる範囲で延命治療について、 今の自分の思いに○を付けましょう！</p> <p>★呼吸が出来なくなるときの人工呼吸</p> <p>・希望する ・希望しない ・今は、わからない</p> <p>★心臓が停止したときの心臓マッサージ</p> <p>・希望する ・希望しない ・今は、わからない</p>

「もしもの時に伝えるシート」
を手にとって下さった方へ

このシートは、「もしもの時」に緊急時連絡先
や自分の思いを医療関係者や、あなたを支える人
に伝えるためのシートです。

命の危険が迫った状態になると、約70%の
人が、受けたい医療や自分の思いなど伝える事が
できなくなると言われています。前もって誰かに伝
えておくことが大切です。

これは決して法的効力が生じるものではありませんが、「もしもの時」に備えてお薬手帳と一緒に
携帯して、心の声を残すことで、あなたを支え
る人の心の負担も軽くするでしょう。

このシートが自分らしく生きるための一助とな
れば幸いです。

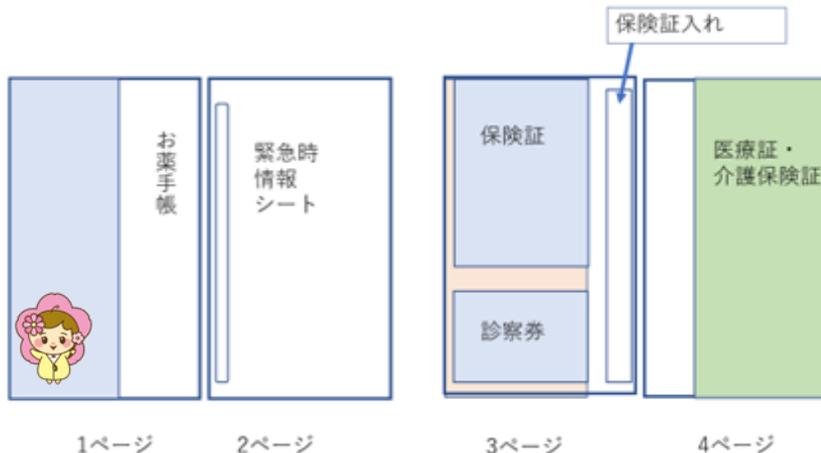
都島区在宅医療・介護連携推進協議会
2023年10月



都島区在宅医療・介護連携推進協議会
事務局 (2-11-1)

お薬手帳カバーのイメージ (提案)

デザイン料が高く透明カバーで検討中



「もしもの時に伝えるシート」の配布状況

各医療機関、薬局、歯科医院、居宅介護支援事業所、訪問看護ST、包括、区役所、保健福祉センター、ブランチ、民生委員等へ現在14,500部を配布



百歳体操 イベント会場での啓発

- R5.11.7「元気教室」(ローレル)
- R5.11.21「三陽ハイツ百歳体操」
- R5.11.24「ワンダフルチーム百歳体操」
- R6.1.29「内代百歳体操」



<区を超えた取り組み>

- 淀川区の「薬剤師会との多職種連携研修会」へ参加し、「もしもの時に伝えるシート」の啓発(R5.11.16)
- さくらネットワーク(総合医療センター地域連携ネットワーク)に参加されている他区の病院関係者へシートの活用について説明

<救急搬送時の活用事例>

- 独居高齢者の救急搬送において呼吸困難で他区の病院へ搬送され、「もしもの時に伝えるシート」を持参しており家族へ連絡がスムーズに出来て助かったとの声
- 他区のある救急隊から「もしもの時に伝えるシート」ですぐに連絡が取れたことで大変好評
- 他区の専門病院から「わかりやすくできていいですね、大切に持っていてください」と患者様へコメント。

今後の取り組み

- お薬手帳カバーの中に入れて保管する周知の徹底
(お財布や携帯カバーの中に入れていた方もいて、
気づきにくいという指摘があった。)
- 救急外来現場での活用状況や活用好事例の収集
- アンケート実施(配布・使用状況、認知状況等)
{設置場所(医療機関)、記入補助等を行った薬剤師・訪看・ケアマネに3月実施予定}
- 引き続き区民への周知